

佳作

バレンタインデーだけじゃない

福岡県 齊藤あゆみ

そもそもの発端は母の日だった。ちょっとした出来心で、母に花をプレゼントしてみた。軽い気持ちだった。しかし、それが思いのほかウケてしまったのだ。理由はあった。私はこれまで、記念日に両親へ贈り物などしたことがなかったのだ。「両親への感謝の気持ちは日々の態度で示すものだ！」などと非常に幼稚なことを思っていたためである。もちろん、日々の態度に感謝の念が現れたことなどなかった。念のために。こんな云々があり、次に私の身に降りかかるのは。当然、父の日だ。なぜ「両親の日」ではなく「父の日・母の日」を作ったのか。日本は記念日が多すぎる。

扇子という選択肢が浮かんだのは、というかそもそも父の日にも何か渡そうと思ったのは、うちの父にピッタリな柄を見つけたから。墨字で大きく「仕事の鬼」ってプリントされてるやつ。本当にピッタリ。高い金を出すのに、ただ優等生風のをあげるのは癪だから。平日は早くても零時帰宅。土日仕事。そんな父に、嫌味も込めて渡してやった。なんで私がこんなことを、と思いながら、ほんのちょっとだけ照れくさかった。表情筋に乏しい父の顔は変わらなかった。

シャイな日本人にとって、いつも一緒にいる人に「ありがとう」を言うのは高レベルな大仕事だ。何でもない日に突然お礼なんてできるわけない。況んや日々の態度で、をや。だから、そういう記念日的なものがないと日本は回らないと思う。たぶん、相当イヤな社会になるのでは。まあ、学生が有効活用するのはバレンタインデーくらいだけれども。

もしかしたら 10 年後の私は普通の日親に電話して、「いつもありがとねー」とか照れもせず言ってるのかもしれない。時代は欧米化。でも、日本の記念日文化はなくなってほしくない。若かりし日の気恥ずかしい、少しだけ温かいこの気持ちを、いつまでも持っていたくはないけれど、たまになら思い出したいから。